

授業概要

近代文学における「格差」の表象を把握するように指導する。近年「格差社会」ということが口にされるようになり、かつての「一億総中流」の社会が崩壊したといわれる。けれども日本社会には古来様々な格差、差別が存在し、近代においても明治以来多くの文学作品にも姿を現している。この授業では日本社会にどのような格差、差別が存在したかということを探るうえで、明治時代以降の作品における表象のあり方を探っていく。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、日本社会における格差
第 2 回	格差の諸相 1：身分と階層
第 3 回	格差の諸相 2：貧困と玉の輿
第 4 回	格差の諸相 3：病気
第 5 回	格差の諸相 4：「在日」
第 6 回	格差の諸相 5：非正規雇用
第 7 回	『十三夜』を読む 1：「玉の輿」のアイロニー
第 8 回	『十三夜』を読む 2：「玉の輿」のアイロニー
第 9 回	『伊豆の踊子』を読む 1：格差のなかの交流
第 10 回	『伊豆の踊子』を読む 2：格差のなかの交流
第 11 回	『冬の日』を読む 1：病による疎外
第 12 回	『冬の日』を読む 2：病による疎外
第 13 回	『コンビニ人間』を読む 1：非正規の日常
第 14 回	『コンビニ人間』を読む 2：非正規の日常
第 15 回	『コンビニ人間』を読む 3：非正規の日常
第 16 回	まとめ：格差社会と文学表現

到達目標

- 日本社会のなかにどのような格差・差別が存在してきたかを知っている。
- 文学作品に格差・差別がどのように表象されてきたかを説明できる。

履修上の注意

- この授業は講義と講読ないし演習の混在型授業である。
- 特別な知識は要さないが、近代文学と社会問題にある程度関心を持っていることが望ましい。

予習・復習

- 授業のパートについては、とくに予習を要さないが、復習によって基本的な事項・概念を了解しておくこと。
- 講読・演習のパートについては、事前に作品を読み、内容をよく吟味しておくことが求められる。

評価方法

- 小試験（20%）、小レポート（30%）、期末レポート（50%）により評価する。

テキスト

- 教員が作品のコピーを配布する。